

令和4年度 教育委員会事務局長「政策宣言」達成状況

教育委員会事務局長 久々江 豊

○ 令和4年度重要事業

事業名	持続可能な部活動、学校の働き方改革の推進
目 標	令和5年度からの休日の部活動の段階的な地域移行に向け、運動部活動におけるモデル事業を実施し、活動場所や指導者の確保などの課題を整理し、円滑に地域移行できるよう取組を進めるとともに、教員の部活動従事に伴う多忙化を解消し、学校の働き方改革の推進に努めます。
年 度 末 達 成 状 況	モデル事業として9月から3月までに3競技(バスケットボール、剣道、柔道)の休日の地域移行を各競技概ね20回実施しました。活動を行う中で、活動場所への送迎や連絡系統などが課題であることを把握しました。 また、3月に実施したアンケート調査では参加した生徒の約7割が活動に概ね満足、3競技の部活動顧問である教員の約8割が負担軽減につながったと回答しており、円滑に地域移行できるように取り組むとともに、学校の働き方改革の推進に努めました。
自 己 評 価	モデル事業を実施しつつ、課題解決を図りながら、引き続き、全部活動が円滑に地域移行できるよう取組を進めるとともに、学校の働き方改革に努めます。

事業名	心身ともに健やかな子どもの育成
目 標	本市では、家族とのふれあいや団らんが子どもの健全な成長に繋がるものとして毎月25日を家族との時間を大切にする「あったか家族の日」としており、市内企業や各種団体と連携し「あったか家族」の普及啓発に努めます。 また、不安を抱えている児童生徒や家庭への支援を推進するため、引き続き家庭教育専門支援員等による教育相談体制の充実に努めます。
年 度 末 達 成 状 況	市内企業や団体と協力して、「あったか家族応援割引クーポン」の配信を継続したほか、「あったか家族応援ダンス」動画を作成・配信し、更なる「あったか家族」の普及啓発活動を展開しました。 また、家庭教育専門支援員を2名配置し、学校やスクールカウンセラー、関係機関等との連携を図ることで、不安を抱える児童生徒の支援を行いました。
自 己 評 価	「あったか家族」については、市内企業や団体等と連携協力するとともに、各種イベントにおいてのぼり旗や動画を活用し、引き続き、普及啓発に努めます。 また、家庭教育専門支援員を継続配置し、専門性の高い相談体制及び不安を抱える児童生徒に対する家庭支援の充実に努めます。

事業名	文化財の保存とフットボールセンターの活用
目 標	<p>国重要無形民俗文化財である放生津八幡宮祭曳山・築山行事の保存活用計画の作成に着手するとともに、文化庁の地域文化財総合活用推進事業を活用し、稚児舞や海老江・大門曳山行事の保存継承のための支援を行います。</p> <p>また、4月にオープンしたオリバースポーツフィールド射水（フットボールセンター）の利用促進に努めるとともに、周辺の賑わい創出に努めます。</p>
年 度 末 達 成 状 況	<p>放生津八幡宮祭曳山・築山行事の保存活用計画を着実に進めるとともに、地域文化財総合活用推進事業による稚児舞や曳山の用具新調に伴う支援を行いました。</p> <p>オリバースポーツフィールド射水については、利用者が今年度の目標としていた5万人を上回り、約5万8千人（令和5年2月末現在）となりました。また、多様なスポーツを体験できるイベント「オリスポフェス2022」を開催するなど、賑わい創出に努めました。</p>
自 己 評 価	<p>国の補助事業を活用し、市の貴重な文化財である曳山や稚児舞、流鏝馬等の保存・継承を図りました。今後も保存継承への支援や文化財保護意識の高揚に努めます。</p> <p>フットボールセンターについては、目標利用人数を大幅に上回るなど交流人口の拡大につながっています。引き続き、サッカーやラグビーの利用だけでなく、各種体験イベントの実施や合宿誘致に努め、多くの方に利用していただける施設となるよう取組を進めます。</p>